



CONTENTS

- ❶ YBA are thinking. 「ぬくもり」
- ❷ 全国高校生 平和を学ぶ集い in 沖縄
- ❸ 広報教材委員会「ぬくもり」座談会
- ❹ 千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要に参拝して
- ❺ 彼國の便り（法話）舟川智也
- ❻ 新仏教青年連盟中央委員 紹介
- ❼ 仏青連盟結成50周年記念の集い 案内



ぬくもり溢れる
あなたの両手で
るしく辛いことが
あろうとも
ち前の優しさで
温めあげましょう
ありのままの
自分を信じて。



首里城にて



平和記念公園

人を傷つけてしまったこともありま
す。「世の中は一瞬一瞬の連続で成
り立っている」と説くのが仏教。どう
考え、どんな言葉を使い、いかに行
動するか。この一瞬をどう生きるか
で悲しみの連鎖を、安らぎの連鎖に
変えていくこともできる」と話して
くださいました。何かを守るために
は非暴力とはいかない場合もあるけ
れど、人を傷つけてはならないとい
う思いは、必ずどこかにはあるはずで
す。その思いを、日々の一瞬一瞬の
なかで大切にしたいと思いました。

2日目のフィールドワークは、過
去の記憶を学ぶため、平和祈念公園
や戦争の跡傷が生々しく残る糸数ア
ブラガマ、戦火にあった首里城へ
行きました。高校生たちが特に印象
に残ったのが糸数アブラガマです。
この自然の洞窟では、戦時中、
多くの軍民が避難しました。しかし、
米軍の手榴弾などによる攻撃や、青
腰カサでの集団自決などによつて、
多くの命が失われています。ガマの
中は、真っ暗で静かで怖くて胸が痛



参加者全員で集合！



学びをプレゼンテーションする

くなりました。ここでどんなことが
行われていたか、生き残っても苦し
み続ける人々についてなど、案内
役の方が話しているのを、私たちは
ただただ沈黙し、聴くことしか出来
ませんでした。

最終日には全体会をし、この集い
で学んだこと、感じたことを各班ご
とにプレゼンテーションしました。
高校生のそれぞれ個性溢れる発表に
感動し、驚かされました。そして共
通するのは、絶対に戦争はしては
いけない、という思いでした。高校
生たちは「生きたくても生きられな
かった人々、今も戦争により苦しん
でいる人々とのつながりの中で、私
たちは今を生きている。私たちにで
きることは、友だちや多くの人たち
にそれを伝えていくことだ」と平和
宣言してくれました。私自身、今
回のご縁から導き出されたその強い
思いを大切に、これから生きてい
くことと感じました。また、多くの
人たちが今を大切に生きてほしいと
願います。

子ども・若者ご縁づくり～ 全国高校生 平和を学ぶ集い in 沖縄



レポート：仏教青年連盟中央副委員長
萩原 佑 香



初日の基本学習 (アイスブレイク)



青九州龍谷高校のナムナムガールズ

2015 (平成27) 年8月4日
(火)～6日(木)、子ども・若者ご
縁づくり推進室が企画した「全国高
校生平和を学ぶ集いin沖縄」が開催
されました。全国の18教区と宗門校
の5校から参加した生徒70名に、仏
教を通じ「人間の愚かさ」や「命の
尊さ」「平和」について体感しても
らい、たくさんの人と交流しながら、
ご縁づくりのきっかけになれるよう
に、との願いで行われました。終戦
70年をむかえ、米軍が上陸し戦地と
なった沖縄で、それが過去を振り
返り、未来について考え、今をこ
とになりました。高校生たちは今とい
う時を「平和な時代」とどれくらい
感じているだろうか。戦争は過去の
こととして終わらせている人は、
どれくらいいるのだろうか、とそん
なことも気になりました。

初日の基本学習では、相愛大学の
釈教宗教授から、仏教の姿勢を「徹
底的な非暴力」と紹介がありました。
私たちは非暴力と願いながらも、他



今号のテーマは「ぬくもり」。そこで広報教材委員会は、日常生活の中の「ぬくもり」について考えてみました。あなたにとっての「ぬくもり」ってどんなことですか？



**「めくもり」について考えてみよう！って
「自分の居場所」について考えてみよう
ってことになっちゃうんじゃないですか？**

萩原 私ね、自分のお母さんに、もうめっちゃめくもりを感じる。私が落ち込んでたりすると、ギョツとしてくれたり。
池上 そういときは何か助ましたりとかしてくれるの？
萩原 ううん、ただ一緒にいてくれるだけ。何も言わへん。何で落ち込んでるかも聞かへんよ。失態したときとか落ち込んでたりすると、何も聞かずに一緒に温泉連れて行ってくれたりする。もうめっちゃ心が癒やされる。
司会 さすがは母親ですね。ところで今号の表紙の写真もギョツしてます。
古閑 それ僕が持ってきた写真です。
萩原 これめっちゃ素敵な写真。
池上 確かにこれはあったかい。
萩原 もう言葉なんでもいらん。ギョツとするだけで伝わん。
古閑 結婚式の企画を友人達としたんですが、しあわせ分けてもらった感じがして、とてもあたたかくなりました。Aの写真（6P参照）もギョツとしてますね。
池上 え？どっギョツとして、お寺

しか写ってないんじゃないかと。
高井 ほら、ここ、陰が。
池上 あ、ほんとは、陰が手を覆ってある。これはやっぱり男女なん？
萩原 いや、そんなところで見えねえん。お寺ってあたたかいところなんやいうのが伝わった。
司会 そう感じてくださっているのは嬉しいですね。
萩原 自分がピンチになったとき、お母さんですけど、仏書に行きます。ゴマすってわけじゃないですよ(笑)



古閑 僕もお寺で自分を見つめ直すことができた。学校へほとんど行ってなかったんですよ。そこへお寺に若い者が集まってるんで来てみたいなか言われて。最初はイヤだったんですけど、いつ行ってもいいと言われて、行ってみたら高校生や大学生が集まって、年齢を超えて色々な話をしていたんです。住職さんの話も聞いたりして、そうするうちに、ここには自分の居場所があるんだなあと感じて、すくめくもりを感じたんです。



「会議もそろそろ煮詰まってきたので、ここからはもうフリートーク」的な座談会
司会：仏教連盟指導講師 萩 隆宣

心が冷えた (>_<) → 優しくされた (^^)v → 温もった (*^^*)

司会 今号の「まこと」のテーマは「めくもり」ということで、広報教材委員会の皆さんには写真を持ってきてもらいました。どれもとてもあたたかい写真ですね。Cの写真（7P参照）とか。
高井 あ、それ僕ですね、自販機の。
池上 「あつたか！」いうて書いてあるもんな。え！「めくもり」ってそういうこと？それじゃったらお鍋もあつたか！よ。
司会 冷えたときには温かいものを身体に入れるとめくもりです。それと同じで、舌のときや悲しいときに優しさを感じるめくもりもりますよね。
高井 雪で車が動かなくなったときに地域の方が助けてくれたり、そういうときは人のめくもりを感じます。
司会 他にも高井さんが持ってきてくれた2・3Pの写真は「めくもり」をテーマにわざわざ撮影してくれたの？
高井 そうです。なんとなくですけど。
萩原 この写真もいい。だから私そこに「めくもり」をテーマに筆で散文詩書いてみました。
高井 ありがとうございます。詩も、め

くもり」がすくめくもりです。
司会 池上さんが持ってきてくれたEとFの写真（7P参照）は高校生が撮った写真？
池上 そうです。地元の高校生が撮った写真。めっちゃめくもりを感じたんで持ってきました。
古閑 このおぼちゃん2人の写真、やっぱりめくもりを感じる。おぼちゃんは基本あたたかからなあ。高校生がバクついてる写真もかわいくあたたかい。





YBA are thinking.
ぬくり
もり

感謝する生活を教えてくれる 全国のお寺さ〜ん お寺に若者の居場所、作ってください〜い！

萩原 うん、お寺はあたたかい。でも、ひとつ要望を言うと「仏教はこうなんです」と上からものを言うのはやめてほしい。自分らしんといときにかから言われると余計にしんどくなる。こっちがしんどいときは話を聞いてほしい。

司会 そんなときは、お話を聞いても聞いてこない？

高井 大切な話だとは思ってますけど、優等生向けの話に聞こえることがあるんです。ちょっと道を外れちな私たちにとっては、ツライ話をされる時がありますね。聞いてこない。

池上 うん。お寺は肩肘張らずさつぱらんに集まることのできる場所であってほしいかな。

古閑 お寺に期待している若者は多いと思います。私が実際そうであったように、お寺に参って自分を取り戻すことができる者がいるんですから。いつでも誰とでも集

まることが出来る場所がお寺であってほしい。お寺さんもそういう努力をしてほしいなあ。

司会 確かに、現実にはそうはなってはいないお寺が大多数なのかもしれません。本願寺派の宗勢基本調査では仏教青年会の活動が活発に行われているお寺は全国に1%。しかし実際には0.5%くらいではないかとも言われています。

池上 ならたとえは、毎月第3土曜日仏青の日とか決めて、その日は全国の若者が浄土真宗のお寺に集まっていい日にするとか、そういう具体的な取り組みを提案するっていいの？

司会 それは面白い具体案ですね。是非とも実現したいくらいです。ただ、全国のお寺さん、何で誰でも参ることが出来る法座をやっているの？、それでは十分でしょうか？

池上 法座ももちろん参りたい

と思うけど、優等の社会生活の時間と合わないかったり、実際に参っても自分だけ年齢が違いすぎて珍しがられたり、場違いで居心地が悪い思いをするんじゃないかと躊躇するよね。

古閑 若者にとって、お寺の素晴らしいところは、感謝する生活を気づかせてくれるところ。感謝しあえる関係を築くことのできることは、あたたかい関係はないと思う。僕にとって「ぬくり」とは感謝することです。

萩原 そんなことを教えてくれるお寺に、ぜひ若者の居場所を作ってください。全国のお寺さん、何卒ご協力お願いします。

司会 お寺はあたたかいと感じてくださっている皆さんの気持ちを真摯に受け止めることができるお寺でありたいと思います。今日はありがとうございました。

一同 お世話になりました。

第35回千鳥ヶ淵全戦没者追悼法要に参拝して



レポート：仏教青年連盟中央副委員長 長 濱 本 信 太

毎年9月18日に東京・国立千鳥ヶ淵戦没者墓苑で開催される全戦没者追悼法要に、初めて参拝した。終戦から70年。「もう70年」と捉えるか「まだ70年」と捉えるかは人それぞれだろう。しかし、70年目というのは、これまでの50年目、60年目とは全く違った重みを持つていると私は思う。終戦時に産まれた方は70歳に、戦争の記憶が確かな方々は80歳を超えているのだ。戦争経験者はどんどん減っている。

「戦争を知っている世代」が少なくなる中、「戦争を知らない世代」に何ができるのか。我々、仏教青年連盟の中に、あの戦争を経験した者はいない。我々にできる一番大事事は何だろうか。それは、あの戦争を知ることだと思っている。あの戦争は何だったのか、戦争が起きたらどういう状態になるのか、それを知ることだ。無知であること、無関心であることは本当に悔しい。先人の経緯を活かす、先人の明がなければ悲劇は繰り返されてしまう。

追悼法要では、平和宣言が行なわれた。今回の平和宣言では皆、自分の祖父母、曾祖父母の体験を基に、自身の考えを述べていた。実際に体験された方から伝えられた言葉を基に述べられた宣言には、どれも心に響く言葉がたくさんあった。あの戦争を伝えていかねばならない、平和を守らねばならないという意気込みを強く感じた。

我々は戦争を知らない、知らないからこそ知らねばならない。聞いていて辛い話、重たい話がほとんどで聞きたくないかもしれないが、そんな世を再びもたらさぬよう、我々が継承し、発信していこう。そして、恒久平和への願いを込めて「平和の鐘」を撞こう。「安徳」を願われる御仏の教えを、漂流十方とお示しのように、仏の教えが十方に響き渡ることを願い、この鐘の音のせて撞き続けよう。この鐘を撞き続けられる世を維持することこそが一番難しいのだから。

彼國の便り



法話 舟川 智也
仏教青年連盟指導講師

忘れられない言葉があります。それはあるお葬儀のこと。祖母を亡くした18歳の男の子が、弔辞でこんな話をしてくれました。

「おばあちゃんの具合が悪いことは、随分前から知っていました。母は僕に「おばあちゃん、具合悪いんよね」と何度も言っていたからです。おそらく、母はおばあちゃんがいる故郷に一緒に帰って欲しかったのだと思います。そうだと知っていたのに、僕は「ふーん、そう。ふーん、そう」という一言で聞き流していたのです。でもこうしておばあちゃんが亡くなり、その手に触れてみると、僕は涙が止まらなくなりました。こんなことなら何故今まで帰ってこなかったのか、今になって後悔がやみません」。彼は祖母の手の冷たさに触れたときに、今まで抱かれていた温もりに出遇ったのです。

私たちは失って初めて温もりを知ることがあります。法話をお聴聞すると、阿弥陀さまのお慈悲の心に抱かれていくと聞きますが、私たちは「そんなものありはしない」と否定してかかります。でもそれは、失ったことがないから気づいてないだけなのかもしれません。

「おかあさん」（作詞・西條八十 作曲・中山晋平）という歌があります。

おかあさん、おかあさん
おかあさん、おかあさん
なんにもご用はないけれど
なんだか呼びたい、おかあさん

なぜ子どもは用もないのに「おかあさん」と親の名を呼ぶのでしょうか。それはこの言葉の響きの中に親に抱かれたぬくもりを感じるからです。

今、阿弥陀さまは「ナモアミダブツ」という声の姿の仏さまになってくださいました。姿・形あるものは、壊れもするし、離れもします。しかし声であれば、私が一声称えるところにもいつもあらわれてくださいます。我が口からこぼれ出る「ナモアミダブツ」の響きの中に阿弥陀さまに抱かれたぬくもりを味わいたいです。

安芸教区の濱本です。多くの方に支えていただき中央委員として4期目となりました。今期より仏青のあり方が大きく変わりました。新体制となったことで、仏青の活動がより活発になる光しが見えてきたように感じています。松本中央委員長を支えつつ、仏青がさらなる発展を遂げられるよう、経験を活かしてがんばります。今期もよろしくお願いたします。



中央副委員長
濱本 信太郎
Shintaro Hamamoto



中央副委員長
萩原 佑香
Yuka Hagihara

奈良の萩原です。約5年前に高校の親友からお誘いを受け、仏青に参加するようになりました。お寺のことはよく分からなくて少し不安でしたが、周りの方々がとても親切に接して頂き、すぐに不安はなくなりました。その温かみを十分に受けた今、それを周りに伝えていこうと思います。日々常に「幸せ者やな〜」って感じています！(笑) 食べる、お酒、歌うことが大好きな萩原ですが、これからも仏青を盛り上げていきたいと思しますので、よろしくお願いたします♡

時の流れは早いもので帯広別院仏教青年会に入ってから11年が経ちます。楽しいことを見つけたり参加することが大好きで、ご縁があり青年会に参加させていただいております。中央委員数削減によりとてつもなく強い責任と覚悟が求められています。一人の力は微々たるものですが、皆で丸となり大きな力で全国を盛り上げたいと考えております。いままでの経験を糧に皆様のムードメーカーになれば幸いです。 合掌



高井 道雅
Michimasa Takai



池上 龍之介
Ryunosuke Ikeue

出身：広島県の山山中 1994年5月5日5時6分誕生
好きなもの：オムライス、ハンバーグ、肉じゃが、お金
趣味：スノボ、料理、DIY (テレビ台作成中)
新体制になったばかりでわからない事が多いのですが、仏青ってなんじゃろ？とか、仏青楽しそうじゃん！など、広報物や人と人のつながりを通じて、少しでも興味を持ってもらえるようにがんばっていこうと思います。どうぞよろしく！

照本教区の古岡です。仏教青年会へ携わりだして13年になります。趣味は独り遊びで、特技は妄想、好きな食べ物はネギ類です。スリーサイズはB76・W69・H72です。とにかく楽しく、行って良かったと思える仏教青年会に出来ればと思っています。これから3年間「まこと」で色々と思ひ、メッセージを発信していきます。変態ながらにがんばっていきますのでよろしくお願いたします



古岡 大誠
Taisei Koga

新仏教青年連盟中央委員

新時代を切り拓く全国より選ばれし十人はこの面々

中央委員長
松本 光生
Kosei Matsumoto



中央委員長の重責を拝命致しました。高岡教区の松本です。仏青では平成27年度より門徒会員を中心に活動をしていくように組織編成が変わりました。また平成28年度には連盟結成50周年を迎えます。これまで先輩達が築き上げてきた、お寺における青年層の役割を未来に繋げていく節目として、お寺と青年層のかかわり方を今一度見つめ直し、元気の仏青を目指しがんばっていききたいと思っております。どうぞよろしくお願致します。

東海仏青は僧侶門徒が丸となり様々なイベントを行っています。四季に合わせ、年に4回のヨガイイベント、僧侶を交えて座談会をする南無talk、そして年1回の寺フェスです。寺フェスは名古屋別院の朝市に合わせ、僧侶による境内法話、お悩み相談、仏青バザー etc が開催されます。東海教区での活動を礎に中央委員として活動していきたいと思っています。



小林 大輝
Daiki Kobayashi



野田 豊
Yutaka Noda

東京教区の野田です。仏青結成50周年の記念すべき時期に、そして新体制として新たなスタートをきるこの時期に貴重なご縁を頂いた事に感謝しています。年齢は中央委員の中では上の方になりますが、経験が浅く分からないことが多いので緊張しています。しかし年下の頼もしい仲間達がたくさんいるのでイジられながら楽しく学んでいきたいと思っております。

鹿児島教区の幸本直之です。可愛い男の子二人の父親をしている30代前半です。ガンダムとお酒をこよよく愛し、家族と趣味のために仕事をがんばっています。幸本家と仏青の活性化のためにがんばっていきますので、よろしくお願いたします。




幸本 直之
Naoyuki Sachimoto



高岡 充基
Mitsuki Takaoka

滋賀教区の高岡です。身長の低さにコンプレックスを持っています。話し出すとグストークが止まらないので、お話の際はご注意ください。お酒は好きですがお酒に弱いので、見た目はおじさんですが、まだ20歳です。他人に言わせれば優しいといわれています。普段は学生で部長をやっております。お琴をやりますので、お琴や三味線や尺八の話をしてもらえると嬉しいです。

 浄土真宗本願寺派

温

一うけつぐ伝灯 伝承をよみ継ぐ一

故

知

新

意匠作製中

COMING SOON

浄土真宗本願寺派仏教青年連盟
結成**50**周年記念の集い

2016年**10**月**9**日

会場：京都 西本願寺



仏青連盟



MAKOTO no.152

浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟機関誌 2016年3月25日発行
編集/発行：仏教青年連盟広報教材委員会 〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル 浄土真宗本願寺派宗務所内 TEL：075-371-5181(代)

Makoto No.152

<http://p.booklog.jp/book/116641>

著者 : bussei

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/bussei/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/116641>

電子書籍プラットフォーム : パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社トゥ・ディファクト